埼玉新聞　2023年（令和5年）1月26日（木曜日）　経済

県人会が新年講演会

乳がん検診「常識に」

一般財団法人埼玉県人会（岡本圀衛会長）の新年講演会が24日、都内で開かれ、関係者約100人が出席した。

第1部は善行賞表彰式や熊谷市教委学芸員の山下祐樹氏による講演会「荻野吟子の生涯―大いなる愛と不屈の精神」が行われた。善行賞は一般財団法人埼玉新聞社会福祉事業団（関根正昌理事長）、埼玉国際青年を育てる会（時田巖会長）、車椅子寄付（大沢匡子氏）が受賞した。来賓の大野元裕知事は「ポストコロナへの移行元年とするため、社会活動、経済活動を活発化させる飛躍の年にしたい。女性が活躍できる社会は誰もが輝ける社会という考えの下、偉人・荻野吟子のような女性の活躍を期待したい」とあいさつした。

乳がん検診受診率向上の重要性を訴えるピンクリボン運動推進埼玉県委員会事務局の広瀬晶子氏（左）とNPO法人くまがやピンクリボンの会代表理事の栗原和江氏＝24日、東京都千代田区のステーションコンファレンス東京

第2部のシンポジウムでは「埼玉県のピンクリボン運動の現状」をテーマに、県疾病対策課長の根岸佐智子氏の進行で、ピンクリボン運動推進県委員会事務局で戸田中央メディカルケアグループ本部の広瀬晶子氏、NPO法人くまがやピンクリボンの会代表理事で県がん対策推進協議会委員の栗原和江氏、埼玉新聞社の関根正昌社長が登壇した。

根岸氏は全国と比較して埼玉の乳がん検診受診率が低いこと、県は受診率50％を超える目標を掲げていることなどを説明した。広瀬氏と栗原氏はピンクリボン運動を始めたきっかけや活動内容を話し、広瀬氏は「活動を始めて17年目になるが、乳がんで悲しむ人の姿を見てきて胸が痛くなる思いをしてきた。乳がんは早期発見早期治療で治癒する確率が高いので、受診啓発は大変重要。検診を受けることが大人の常識になってほしい」、栗原氏は「自分の乳房を意識して生活するブレスト・アウェアネスを習慣化するためにも、その伝道師になってほしい」と呼びかけた。

関根氏は「経済界でも『早いに手遅れなし』という言葉がよく使われるが、検診も同様。企業のトップである皆さまのご協力で、その輪を広げてもらえれば」と締めくくった。

（土沢貴弘）